

令和8年度 貝毒プランクトン出現状況（6月16日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期8回目の6月16日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*と*D. rotundata*、*D. rudgei*が出現しました。

イガイの下痢性貝毒検査は6月以降実施予定です。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/2	5 m	9.9	3	21	9	
		10m	10.0	12	18	18	
		20m	9.9	3	10	16	
②	4/10	5 m	10.9	32	35	11	
		10m	10.8	60	7	53	
		20m	10.6	70	7	18	
③	4/23	5 m	12.8	95	14	39	
		10m	12.4	56	4	21	
		20m	12.3	56	18	11	
④	5/8	5 m	13.7	24	3	15	
		10m	13.8	21	0	24	
		20m	12.8	75	9	12	
⑤	5/13	5 m	15.5	18	3	21	
		10m	14.1	42	3	9	
		20m	13.9	96	3	3	
⑥	5/22	5 m	15.9	3	0	15	
		10m	15.1	0	0	12	
		20m	13.8	53	7	4	
⑦	6/2	5 m	17.1	3	0	9	
		10m	17	0	0	3	
		20m	17	0	0	7	
⑧	6/16	5 m	19.9	0	0	25	
		10m	19.3	0	3	57	
		20m	17.4	3	0	42	
⑨		5 m					
		10m					
		20m					
⑩		5 m					
		10m					
		20m					
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

*貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされていません（安本 1993）

*下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。